

令和元年度地域力向上事業（生活・自立支援キャンプ）
「チャレンジウィンターキャンプ in ASO ときどきスキー教室」事業報告書

企画指導専門職 田中 英祐

1 事業の概要

- (1) 趣 旨
- (1) 参加した児童・生徒に日頃できないようなスキーを体験させることで、チャレンジすることのよさに気づかせ、仲間を大切にする心情や仲間と協力していこうとする態度、お互いを支えあう良さを実感させる。
- (2) 雪に親しみ、大自然のすばらしさや雄大さを知る。スキーの技能を（滑り方、曲がり方、止まり方、転び方等）を身につけるとともに、自分にあった滑り方を知り、安全にスキーを楽しむ。
- (2) 期 日 令和2年1月12日（日）～13日（月） 【1泊2日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家・九重青少年の家・九重森林公園スキー場
- (4) 参加者 児童養護施設に在籍する幼児～高校生（23名）と職員（9名） 計32名
- (5) 講 師 薄井 良文 氏（研修指導員） 伊志嶺朝紀 氏（研修指導員）
長尾 武彦 氏（スキー指導講師）
- (6) 担当職員 田中 英祐（企画指導専門職） 有木園 和志（企画指導専門職）
山川 昇椰（事業補佐員） 尾中 純一（事業推進係長）
米村竜太郎（管理系係員）
- (7) 内 容 スキー教室

2 成果と課題

- (1) 成果
- 講師（1名）や研修指導員（2名）、九重青少年の家職員（2名）、ボランティア（4名）のスタッフを充実させ、各スキー班に2名以上の指導者を確保したことで、参加者が安全にスキー教室を実施することができた。また、事前の現地視察やスタッフミーティングにより、スキー場での安全管理について共通理解をしたことで、スムーズに活動を進めることができた。
 - 九重青少年の家を宿泊先にしたことは、参加者の睡眠時間の確保、2日目朝の移動時間の短縮、入浴対応など、参加者の健康管理において有効であった。
 - 「最初は難しくて早く帰りたかったけど、だんだんできるようになって嬉しかった。」「体を動かしたのでお腹がすいて、ご飯がおいしかった。」といった参加者の感想から、本事業の趣旨を達成することができたことがわかる。技能に応じた班編成をしたことで、初心者から経験者まで充実したスキー教室となった。
 - 「スキーができるようになったから、今度は友達と来てスキーをしたい。」といった感想から、本事業が参加者のその後の生活へのつながりをもたせることができたことがわかる。
 - 「スタッフさんや友達に助けてもらいながら楽しく活動できた。」や「友達と一緒に遊んだり、学んだりすることがとても楽しいということを改めて感じました。」「全然話さなかった子ともスキーを通してたくさん話げできた。」といった参加者の感想から、本事業が仲間作りにも効果的であることがわかる。
 - 思いっきり子ども達と遊んで、楽しかった思い出を刻んでほしいという主査の思いを担当者全員が共有してくれたことで子ども達が笑顔で園に帰ることができた。
- (2) 課題
- 指導者間の打ち合わせの時間が不足していた。事前に指導の方向性を共有する時間を持つことができれば良かった。